

O1-003

母乳栄養児のビタミンD欠乏と日光浴

鶴田 恵子、土屋 千枝、棚橋 順子、村瀬 喜代子、川井進

川井小児科クリニック

ビタミンD(VD)は、私たちの体内でカルシウムの吸収を助ける健康に欠かせない栄養素である。日光を浴びることでVDは体の中で作られる。しかし、近年は日光に含まれる紫外線の害が知られるようになり、女性を中心に日焼け止めの使用など、日光を避ける方が増えている。また、母子手帳から「日光浴をしましょう」の文章が削除され保健師も指導しなくなった。一方、母乳栄養児は母乳中のVD含有量がミルクに比べ少ないため多くはVDが欠乏する。今回母乳栄養児のVDの測定、保護者の日光浴に対する考え、日光浴指導後のVDの変化などについて検討した。

対象：2019年9月～2022年12月末までに乳児健診に来院した生後6～11か月の完全母乳栄養児240名。

方法：VD欠乏症の説明を受け検査を希望した母乳栄養児にVD25OHDを測定。日光浴に対するアンケート調査、VD不足の乳児にVDサプリメント投与、VD補完食指導と日光浴指導。4週後にVD25OHD値を再検査した。

【結果】

<VD欠乏頻度>母乳栄養児240名中VD正常は35%、欠乏65%。月齢、男女で25OHD値の差はなかった。

<日光浴アンケート結果>日光浴は必要と思うかに対して95%が必要と回答。逆にしない方がよい2名、必要でない9名。日光浴が必要と思う理由は生活リズムを整える、気分転換になるが70%、くる病予防と回答したのは40%だった。日光浴をしている74%、していない26%。

<VDと季節>4～9月に来院児(116名)の25OHD平均値は19.4ng/ml、1～3月に来院した児(44名)は10.7ng/mlで、冬期来院児に低い傾向があった。

<日光浴している児としていない児のVDの比較>日光浴している児(173名)のVD欠乏は17%、していない児(60名)の欠乏は43%と後者にVD欠乏が多い傾向がみられた。

<4週後のVDの結果>サプリメント服用、補完食、日光浴指導で72%が正常になった。サプリメント服用した乳児102名(86%)は正常となった。サプリメント服用していない乳児17名は日光浴と補完食で9名が正常になった。日光浴していなかった児も指導後は全員日光浴するようになった。

【考察】

保護者の多くは日光浴を必要と思うとしているが、直接日光を浴びるということを意識したことがないとの声も多く聞かれた。日光浴していない乳児にVD不足が多いことから母乳栄養児には特に日光浴指導が必要であると考えられた。

O1-004

グレーゾーンの子どもの保護者に対する 保育者の支援の在り方

～保育者や教諭の現状から見てきた保護者のニーズ～

佐野 葉子

東京福祉大学 保育児童学部

I. はじめに

現在、保育所でのいわゆる「グレーゾーン」と呼ばれる「気になる子」は保育所全体の9割以上の保育所に在籍し(H27,日本保育協会)、また、平成24年に文部科学省が実施した調査では、通常学級に在籍する発達障害の可能性がある子どもは6.5%ということが明らかになっている。

今回発達障害の子どもの保護者に着目し、保育者や教師(以下保育者とする)の対応について、保護者はどのように考えているのか明らかにすることを目的に研究を行った。

II. 研究方法

対象：子どもが自閉スペクトラム症と診断された保護者3名。

方法：Zoomを用いて半構造化面接を行った。そのインタビューの逐語録を作成し、質的に分析を行った。

調査期間：2022年9月～11月。

III. 結果

保育者の対応で保護者が良かったと思った点は、「保護者に対して親身になって寄り添って対応してくれた」、「注意することも優しく教えてくれたり、責めたりせず、良いところ見つけ褒め、自信に繋げてくれた」、ことであった。一方、辛かった、点は、「集団行動ができないことを理解してもらえず、子どもが怒られた」「子どもが困ると言われた」、「偏見などの特別な目で見ずに、みんなと同じようにしてほしい」、「マイナスな言葉が一番辛かった」であった。

保護者が一番求めていたものは、どの子に対しても、わかりやすい対応を行ってほしいということであった。

IV. 考察

保護者は保育者からの言葉が、壁を作ってしまう要因になることや、話を聞いてくれる存在が助けになるという結果から、保育者は、親身になって保護者に寄り添い、相談したいと思えるような存在になることが必要であると考えられた。保護者が保育者に些細な相談もしやすくなるためには、信頼関係を築くことが必要不可欠であることが考察された。

保育者は子どもの困った行動ばかりに注目するのではなく良いところを見つけ、自信につなげられるような支援をすることが大切であることが明らかになった。

保育者と保護者の間に信頼関係が築けていない場合、保育者が保護者に伝えたいこともうまく伝わらない可能性があることも明らかになった。

V. 結論

保護者は保育者の言葉一つひとつにさまざまな思いがあり、うれしさや、つらさを感じていた。保育者は保護者に対しても親身に寄り添い、子どもの成長を共有しながら信頼関係を築いていくことが大切であるという結論を得ることができた。